2 国内・海外の地域伝統芸能の招聘公演を支えて 61 年目の指針

私は昭和 47 年（1947）伝統芸能（株）ナカツボ・アーツを創設。以来全国各地から 97 カ国の地域まで公演・国際会議・芸能調査を行ってきました。その制作過程でアート・マネジメントを学んできました。今でも舞台芸術の企画開発プロデュースを始め，興行制作に携わっています。（なお，本稿では「民俗芸能」は日本の農山漁村に伝えられる諸習慣の中の芸能文化，「民族芸能」は海外の諸民族の芸能文化を指します。）

1 海外の民族芸能公演を企画したい

今では民俗・民族芸能の場がふるさとを離れ，舞台芸術，メディアなど映像で見られる時代になりました。私たちの元に「我が国の民俗芸能や海外の民族芸能と交流したいが，何をどうしたらよいのか分からない」という問い合わせがあります。しかし我が国や海外の芸能の基本的な構造を知らないで，企画される人達がいます。基本的な知識と経験が必要であり，片手間で出来るほど甘い世界ではありません。我が国には“独自の伝統芸能”と“欧米系の舞台芸術”の二つのカテゴリーが存在します。しかし奇妙なことに互いの文化には距離があり，同じマーケットに共存していながら交流は殆どありません。一方では民俗・民族芸能分野は，余りにも広範囲にわたり，現地に赴かないと実態が分かりません。グローバル情報化時代に伴い，舞台芸術の多様化も進み，新しい文化芸術を創造しようと異分野との交流が増えてきました。中でも民俗・民族芸能はその国独特そのものといってよいでしょう。日本の民俗芸能と諸外国の民族芸能の交流を図ることは，極めて公益的な活動であるといえましょう。

2 民俗・民族芸能を土台に創作された舞台

民俗芸能を舞台に取り入れたのは，まず先代西崎緑舞踊団，続いて文化庁芸術祭賞に 4 回も輝く花柳徳兵衛舞踊団，その影響を受けて日劇ダンシングチーム，大阪松竹歌劇団（OSK），松竹歌劇団（SKD），宝塚歌劇団が競って取り上げました。いずれも民俗芸能の面白い部分を取り出して，歌謡曲風の和洋合奏であり，音楽監修はそれほど考慮されていなかったようです。わらび座，舞踊集団菊の会，荒馬座，田楽座そして沖縄歌舞団，海外では旧ソ連時代に培ったモイセーエフ，ベリオスカ，ポーランドのシュロンスカ，マゾフシェ，中国の東方歌舞団，上海歌舞団，エジプト国立 REDA 民族舞踊団は今でも活躍しています。

3 民族芸能の舞台化による諸課題

北朝鮮，中国の舞踊・音楽をテレビ等でご覧になった方がいると思います。誇張した演出やロシア的な発声による唄やロシアンダンス的な振り付けや威圧的なパレードは，旧ソ連文化政策の元で培われた賜物であるといってもよいでしょう。社会主義国家では民族芸能が果たす役割は大きく，国威発揚出来る宣伝の場として活用されました。社会主義国では忠君愛国など国策という枠に縛られており，創造的な作品は生まれません。これらの国々では，同じ連帯感を味わえる芸能として同盟国に民族芸能運動を勧めました。民族文化・地域文化を普遍的・画一的なイデオロギーでもたらされたことで，同盟国の民族文化の特色は急に失われました。

影響事例 1　1963 年エジプトは故ナセル大統領の下，これまで多岐にわたる農民たちによって培われてきた唄と踊りをエジプト文化省管轄下に置

き，ソ連モイセーエフ民族舞踊団から指導者を招聘。モイセーエフの指導の下に農村芸能の調査が行われた結果，振付けや作曲に至るまで画一的なイデオロギーのスタイルにしました。その実現のためにプロの音楽・舞踊家を養成する国立バルーン劇場を設けました。一方ではエジプト古来の民族楽器がクラシック音楽楽器に置き換えられ，微妙なアラビック音楽の音階が消えました。限りなく西洋音階に置き換えられたので，声もベルカント唱法になりました。私たちは最近までエジプト文化省から招聘費用の大半を負担して貰い，公立文化施設などを受け皿として，国立 REDA 舞踊団を始め，上エジプトのヌビア地方からデルタ地帯のアレキサンドリアまで六地域の民族芸能団を招聘しました。しかしソ連式舞踊音楽スタイルが色濃く残り，伝統的なエジプト風に戻すために緊張感が途絶えませんでした。まず衣装を背広スーツからガラベーヤへ，バイオリン，チェロ，フルート，シンセサイザーを全て元のエジプト民族楽器に置き換えました。

影響事例２　ロシア連邦ハカス共和国はモスクワより８時間余りのモンゴル国境に近い地図にも無い場所にあるために，無形の民俗文化が生き残ったことが今では幸いしています。ハカスの箏と喉歌の民族音楽は，旧ソ連時代に西洋的な発声に変えられそうになりましたが，ハカスの民族音楽家達の抵抗にあい免れました。

影響事例３　少数民族の宝庫・中国雲南省や貴州省の民族芸能は，奥深い山間部にあるため，文化大革命の破壊の嵐から免れることが出来ました。貴州省徳江県土家族の儺堂戯は日本と中国の研究者らによって発見され，文化財的な価値が高いので，貴州省共産党広報文化委員会によって認められました。今では農民達によって保存されている極めて原中国的な民族芸能です。一方では旧ソ連音楽家の指導により楽器の改良がなされました。元々馬の毛や絹糸を使用していた弦楽器類は鉄やナイロン線に変えられたことで発声音の質が高くなりました。音域が広くなったことで情緒ある音色はなくなりました。

4 日本公演に至る迄の複雑な流通過程

あらゆる種類の舞台芸術公演が全国各地で連日行われています。民族芸能を招聘公演するには？招聘に際しての数々の手続きがあります。旅券・特定査証・招聘状・税関・外貨・旅費・宿泊・二重源泉・通訳の選択・文化庁・国際交流基金・メセナ協議会・民間会社などからの補助金や最大な難関である公的助成金申請などです。

(1) 実地調査（フィールドワーク）

公演実施にあたり必要なことをまとめました。祭りの庭，舞台芸術の現場を知らないと具体的な制作や企画が思いつきません。民俗芸能で留意しておく大切なことの一つは，民俗芸能の多くが初めから舞台化されたものではないことです。現在芸術的色彩の濃い伝統芸能の大半は民俗・民族芸能が芸術に昇華したものです。民俗芸能は地域によって捉え方が異なることがあります。例えば沖縄で島々の民俗芸能自体は「恥ずかしい負の遺産である」といわれたことがあります。その一例は私が沖縄歌舞団を創設して民俗芸能を取り上げたときの話です。宮古・八重山などの芸能に対して優越意識を持っていた古典芸能の評論家，舞踊家から今では考えられないほどの非難を浴びせられ，その偏見は並大抵ではありませんでした。以下フィールドワークを推進するための要点です。

①調査推進には謝礼・接待・旅費・宿泊・通訳・撮影類など多額な費用がかかるので，公的助成金やメセナなど経済支援が欠かせない。

②祭りや民族風俗を専門とする博物館等の学芸員を探すことから始まり，調査に支障のない祭事時期や気候などを事前に調べること。

③我が国の伝統芸能や民俗芸能の基礎的な知識を持っていること。

④調査地の基礎的な歴史と風土を事前に学習しておくこと。現地で即興学習しても間に合わず，貴重な時間を浪費する事になり兼ねな

い。

⑤少なくとも中学三年生程度の英会話力に加えてその土地で使われている挨拶程度の言葉を覚えること。

⑥カメラ・VTR等，映像を記録出来る能力を持ち，移動可能な機材を用意すること。

⑦調査場所は移動困難な辺鄙地などもあり，気力，体力は欠かせないので，日々のトレーニングが欠かせない。移動には足腰のしっかりした4輪駆動車などの選択が必要である。

(2) プロデューサーの起用

どのような仕組みで公演がされているのか？専門的な知識を持ち，制作予算の作成や収支の最終精算まで作業の進行管理を総合的に統轄し，全体の成否に責任をもつのが役目です。さらに実演家，主催者，お客様の三者が満足されることが大切です。実演家・学識経験者の心意気だけでは，芸術経営は出来ないし，どんなに優れた創造的な作品であっても受け入れるマーケットがなければ成果は出せません。そこにお客様を誘導する橋渡し役である興行プロデューサーがいなければ，創造団体は生き残れません。行政主導型の場合，役所の体裁もあり意向を汲んだ学識経験者などをプロデューサーとして据える場合が多いようです。現場で汗を流した人達が表に出ないで，メディア，学識経験者，実演家そして行政組織の上に立つ人がいきなり出てきて名前だけプロデューサーを名乗ってしまう場合があります。欧米ではプロデューサーは黒衣であってはならず，その姿を常に見せていることがとても大切です。

(3) 受け入れ機関，組織・助成金の開拓

海外旅行もインバウンドも組織的な公演ネットワークによるマーケットも少なかった1970年代，私はマーケットの開拓に乗り出しました。当時は国会において国際間の文化交流の必要性が指摘されるなど時代の要請があったことも幸いしました。マーケット開拓の過程では様々な高いハードルがありました。まず民俗・民族芸能は他の芸能分野と比べて，極めて公益的な活動でありながら商業ベースでは成立出来ません。何処でも企画受け入れには難色を示しました。私は受け入れ可能な制度があることを営業過程で知りました。全国をネットワークで結ぶ公立文化施設や教育委員会による自主文化事業です。自主文化事業には，内容や出演者が決まっている「買い興行」と公立文化施設自らプロデュースする「自主興行」の二つのタイプがあります。私は「買い興行」を採用しました。「自主興行」は縛られない自由な発想で企画が出来る反面，経済的なリスクが高いのが難点です。受け入れ側からは，単に鑑賞するだけではなく，双方の比較芸能からワークショップなど互いに学び交流出来るマネジメント企画が求められました。さらにネットワークで全国的に組織されている舞台芸術鑑賞団体があります。例えば，民音・労音・音協・子ども劇場・小中高校視聴覚鑑賞教室などです。また民間の友好協会・海外の民族舞踊を楽しむNPOなどのサークル活動の存在が情報や集客など大きな支えになっています。

5 民俗・民族芸能の構成と演出

民俗・民族芸能には今日的な意味合いの演出はなく，その生れた土地で周囲の環境をエネルギーとして数百年，数千年と伝承されてきました。その長い伝承の過程で祖先達は工夫をこらし，技を考え次第に型を整えてきました。民俗・民族芸能を楽しく，しかも付加価値がつくものに見せるためには構成と演出が欠かせません。一般的に行っている羅列的に並べる演出だけでは意味がありません。祭りのふるさとを感じさせる演出が必須条件であり，お客様と繋げたいコンセプトを持つことです。具体的には，舞台で行う場合は自然の環境を取り入れ，映像，照明，音響，舞台美術などを効果的に配置します。屋外の場合は伝統的な建物や自然景観を背景にした演出が有効です。例えば，演目解説，映像，衣装，髪の結い方，扇子，楽器音階，振りの説明など，体験や実演で見せる方法を組み込むことです。

6 海外の民族芸能公演が少なくなった理由

2000年頃までは政府の要請もあり，官民挙げての国際交流文化ブームを受けて，民族芸能の公演やアジア文化会議が盛んに行われていました。しかし殆どが一過性のものに終わり，今では影を潜めてしまいました。色々な民族芸能を招聘出来たのも予算がつけられたからです。

①海外の魅力的なネーミングの効果で集客も出来ましたが，今ではネット・メディアの発達で誰でも気軽に国内・海外のお祭り，民族芸能がバーチャルで見られるようになりました。

②自治体の財政難に加えて公立文化施設では民間の指定管理者に任せた結果，収益を挙げられない自主文化事業，特に民俗・民族芸能を企画することが極めて難しくなったことです。

③国際文化交流による付加価値が地域にもたらす役割を住民にアピールしてこなかったこと。

④国際交流基金・文化庁・自治体・メセナ協議会の補助金等に頼らざるを得なくなったこと。公演助成の審査基準が厳しくなるばかりです。

7 アジアのネットワークから多文化交流傾向

今までの欧米からアジアへの一方通行な交流から，双方向の交流という第3の方法が行われるようになりました。新しい響きを求めて創造的な表現を発信し構築する関係です。例えば日本の伝統芸能にアジアの民族音楽的な要素の導入，電子化した音楽とアジアの民族音楽の融合があります。海外のプロデューサーやアーチストは，とかく日本の音楽・演劇などに日本趣味的な要素を求めたがる傾向があります。形だけのエキゾチズムは避けて，日本人が持つ感性を，相手側に理解されるような努力をすることが必要です。私はアジアのアーチストやプロデューサーと共に作品を創造し共有してきました。成功した事例として① 2002年神奈川県主催世界民族芸能芸術の祭典，② 2003年フィリピン文化センターとASEAN10カ国のコンテンポラリーダンサーと共に舞踊劇ラーマーヤナ物語，③ 2004年文化庁主催世界伝統芸能フェスティバル（中国，韓国，フィリピン他），④ 2015年カンボジアの音楽と沖縄奄美の音楽舞踊の競演が挙げられます。

次に，私が関わっているアジア他組織的な民間文化交流ネットワークがあります。私は常に国内や海外のクライアントに出向くことで信頼を受けてきました。海外では組織よりも個人的な関係を築くことが極めて重要です。

①FACP（Federation for Asian Cultural Promotion・アジア文化芸術交流促進連盟元理事）：舞台芸術を始めとした多様な文化の交流を促し新鮮な感動と活力をもたらす為の積極的な活動を続けており，2020年は第38回大会をマニラで行いました。

②WOMEX（World Music Expo）：一年に1回欧州を起点に10日間にわたり世界の民族芸能が集う世界民族芸能ショーケース（見本市）があります。

③その他ISPA（米国），IAMA（英国），CINAR（カナダ）等：クラシック音楽，演劇，民族芸能などネットワークに支えられた舞台芸術組織は有名です。

8 多くの課題に囲まれて

近年の共通している傾向として，内容よりもメディアへの突出度に加えて「人やお金が集まればいい」という企画が横並びとなりました。誰でも知っているような浪費型企画の傾向にあり，採算性にはほど遠い民俗・民族芸能は退けられてしまいました。文化は採算がとれるから良いというものではありません。採算面だけを考えて運営すれば人を集められるものだけが文化となってしまいます。これでは地域の文化施設本来の目的が果たせないばかりでなく，地域文化の崩壊につながることが心配です。（中坪功雄）